

<基調講演>

北海道大学 小林英嗣 名誉教授 (一般社団法人都市・地域共創研究所代表理事)

小林英 (北海道大学) : 北海道大学の小林です。札幌の都心まちづくりを事例にした話をおこなうことで、皆様の議論の種となれば幸いです。

私は札幌、特に都心部のビジョンづくりに関わってきたので、その経緯、現状、これからの方向とそこに求められるエリアマネジメント活動への期待をお話します。20年ほど前から札幌の都心ビジョンを戦略的に考え、実現化する体制構築と具体的推進内容について、行政・民間の両者に、都心まちづくりアドバイザーと提言してきました。2000年にスタートした長期総合計画のなかで、特に都心まちづくり計画について細かくまとめています。長期総合計画は行政各部局の計画や事業に結び付けるように使われます。しかし、都心まちづくり計画は、部局を横断し、様々な制度、計画を重層的に束ね・連携させる必要があり、行政の関連部局も多岐にわたることになります。そこで、都市計画や再開発などのハードと経済政策などのソフトを横串に刺すように都心のまちづくりを推進していくために、都心計画を行政内部で担保する部門を作ることを強く提言しました。それと同時期に中心地活性化基本計画を策定する必要があったのですが、通常であれば中心市街地活性化基本計画は経済局が担う業務ですが、経済局と建設都市計画は常に意思疎通が行われるわけではないので、都心まちづくりと中心地活性化計画を同じ部門で担うことも提言しました。その後、中心市街地活性化計画にある TMO を即時に着手することを決めました。ここまですが札幌都心の第1期のまちづくりです。

都心まちづくりは前期10年、後期10年というシナリオで策定されましたので、10年が経過したときに戦略的に計画を見直しました。これが第2期のまちづくりです。当時の TMO は比較的公的な機関が集まった組織であったため組織として動きが鈍かったので、大通まちづくり会社と駅前通まちづくり会社をほぼ同時に設立させました。そのため都心まちづくり計画を策定した都心まちづくり推進室が一元的に両まちづくり会社と連携しています。これが現在までの札幌都心まちづくりに関することでもあります。

現在は、2016年からの新しい都心まちづくりビジョンを策定している最中です。ここでは今以上に、都心をダイナミックに動かしていくシナリオ、具体的な空間の構想、マネジメントの在り方さらには PPP の体制をどのようにつくるかといった戦略を明確化しています。これを担う、より創造的で推進能力のある新しい主体を考慮に入れながら第3期を進めていく必要性を前提に議論を進めています。この議論のベースとなっているのは、市民・企業・行政をどのように位置づけて行くかです。第2期までは行政と企業・市民は垂直的補完関係であったのを、第3期ではより水平的補完関係を前提に考えています。この水平的補完関係を構築する上で重要となってくるのは、**public, common, private** の概念であり、新都心まちづくりビジョンではそれぞれに対し最適な位置づけを考えています。日本人は **public, private** は理解しやすいですが、**common** という概念はなじみがなく理解しづらい概念です。一方、市民力で民主化を勝ち取った経験のある国や都市には **common** という概念が明快です。与えられた近代化という背景をもつ日本、特に北海道には **common** という概念が希薄なので、意識の上でどのように構築し、場所を決定していくかが重要です。これまでの **common** という概念は垂直関係であり、補填の意味での補助金交付や管理委託などの、間接的な手法により行政が関与してきたものが **common** に該当します。しかし、これからの第3期では市

場メカニズムを活用し PPP の推進を前提にする必要があります。商店街や振興会は保守的な体質が強いので、商店街が主体であるという、これまでのまちづくり会社の枠組みを超える必要があると考えています。また 2026 年の冬季オリンピック誘致に向けて、オリンピック遺産構築への投資とかつてのオリンピック遺産の再活用や運用も視野に入れなくてはならず、その中核が大通公園であると想定しています。今後、大通公園もリノベーションが求められますが、大通公園は公園法に基づく規制だけであり、運用しづらいために common になりません。これを common にするためには質の高いインフラが必要となるので、仙台などを例に大通り公園と道路をリノベーションしながら規制緩和も含めた新しい制度を考えています。そのためには全体をマネジメントする団体が行政外部に必要となるので、緊急に検討を始めている所です。これまでの札幌都心まちづくりの経緯とそのシナリオを、次の体制とシナリオへと展開しつつある、という話題提供を行い、お話を終了させていただきます。